

保護者様

尼崎市立名和小学校
校長 石塚 和之

学力・生活実態調査及び保護者アンケートの結果について

立春を迎えたとは言えまだまだ寒い日が続いておりますが、保護者の皆様方におかれましては、ますますご清栄のことお慶び申し上げます。今年度も本校教育にご理解とご協力をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。遅くなりましたが、今年度5月実施の学力・生活実態調査及び、名和小学校の教育についてのアンケート集約結果をお知らせします。

(1) 学力・学習状況調査

① 調査対象及び調査内容

・6年生は、国語・算数の全国学力調査と学習状況調査 ・5年生は国語・算数の市到達度調査

② 6年全国学力調査

国語は、基礎基本的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題とも、全国に比べてマイナス13ポイントの差です。観点的には、「話す」、「聞く」力が、A問題マイナス6ポイント、B問題マイナス9ポイントであるのに比べて、A問題の「書く」力はマイナス15ポイント、B問題の「読む」力はマイナス14ポイントと、その差は大きく開いています。読み書きの力に課題があります。

算数は、A問題で全国に比べてマイナス12ポイント、B問題でマイナス16ポイントの差です。特にB問題の「知識・理解」がマイナス7ポイントに比べ、「数学的思考」がマイナス17ポイントと、思考力に課題があります。

5年市到達度調査

国語は、市にマイナス1.9ポイントと迫っています。漢字の読み、言葉の書き込み、書き抜き、接続語等の言語面で間違いが見られました。内容を整理し、説明することができていました。

算数は市より7.6ポイント高かったです。ただ、1辺と2角の二等辺三角形の作図に間違いが見られました。条件にあわせて答えること、応用して答えることに間違いが見られました。思考を問う問題で課題がありました。

③ 生活実態調査

「家庭学習をほとんどしない」児童の割合は2.1%とここ数年で減少傾向にありますが、全国より1.5%高い数値になっています。また、「7割強の児童は2時間以上テレビを見、3.5割の児童が2時間以上ゲームをしています。その影響もあってか、授業以外の学習(塾も含む)時間が1時間以上の児童の割合は45.8%で、昨年より2.9%程向上したものの、国の平均より16.2%低くなっています。

④ 今後の課題

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が確立されている児童の学力が高い傾向にあります。ご家庭でも規則正しい生活習慣となるように、日頃からコミュニケーションを大切にするなど積極的に関わる必要があります。
- ・当然のことながら、家庭学習の時間が増えるほど得点率が高いです。出された宿題をきちんとやり、自由勉強に取り組む等、自学自習の力がつくよう励まして下さい。家庭での読書習慣も、全くない割合が38.3%と、昨年より6.3%軽減されたものの、まだ高いです。
- ・テレビやゲームなどの時間を約束事として決め、けじめある生活となりますようお願いします。

(2) 名和小学校の教育について(右ページ参照)

① 学校全般について

ペア学級や計算科などの特色ある教育活動やオープンスクール等の開かれた学校づくりについては、概ね高い評価をいただいております。H25年度から始まった北校舎の耐震化工事で、施設・設備面が次第に改善されていますが、引き続き市教育委員会と協議し、その充実に努めて参りたいと考えています。

② 保護者自身について

授業参観や懇談会に多くの保護者の方が参加して下さり、また学校通信や各種連絡文書等をよくお読みいただいていることに、大変ありがたく感謝いたします。PTA活動等の積極的な参加がここ数年で増加傾向にあります。今後益々のご参加をいただければ大変助かります。

③ 子どもについて

家庭学習の項目以外は概ね良好で、子ども自身も学校やクラス、友だちに対する肯定感や自尊感情が比較的高いことがここ数年の生活実態調査でもわかりました。それを基盤に、今後とも宿題等の家庭学習習慣の確立を図り、益々の学力向上に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご家庭のご協力の程を宜しくお願いします。

④ 教師について

概ねご理解をいただいているように思いますが、今後とも個別具体的な課題を踏まえて、子ども達のより充実した学校生活のために、家庭・地域との連携を深めて参りたいと考えております。